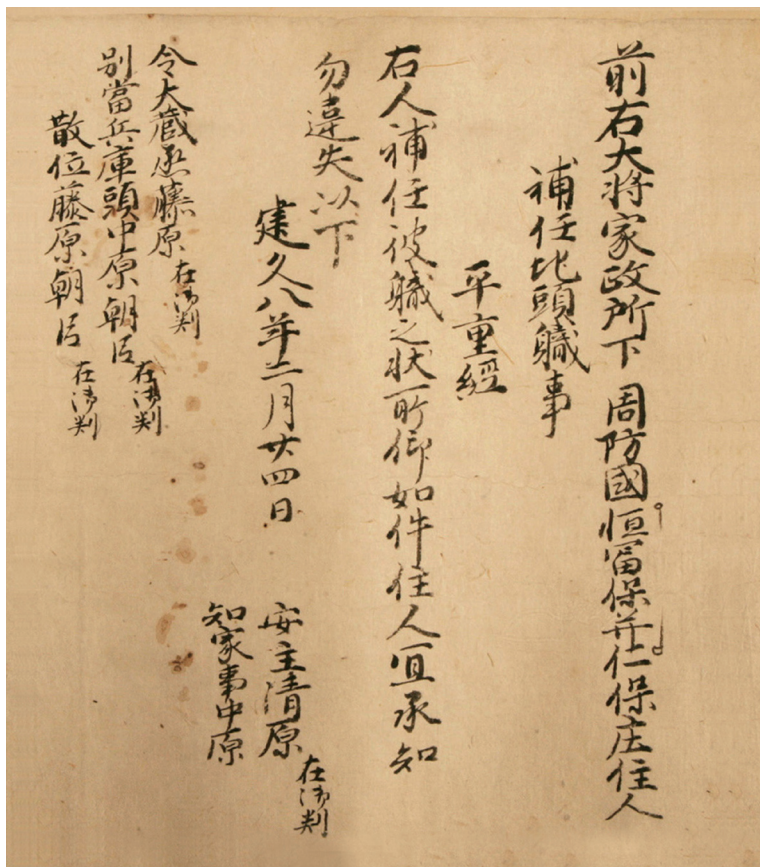


鎌倉幕府の始まり



* 三浦家文書甲1 (1) 「平子氏本領相伝重書案」のうち、前右大将家政所下文案

解説

源頼朝（1147～99）は、源平合戦から奥州合戦にいたる過程で、東国の武士団を率いて、鎌倉を本拠とした武家政権（鎌倉幕府）を作り上げました。

初期の幕府の機関には、将軍のもとに侍所、政所、問注所などがあり、幕府は国ごとに守護を、荘園や公領ごとに地頭を置く権利を朝廷から獲得して全国の警察権を握りました。頼朝と主従関係を結んだ武士は、御家人として奉公をする代わりに、御恩として先祖伝来の領地を保護されたり、新たな土地を与えられたりしました。

写真は、1197（建久8）年に「前右大将家」（源頼朝）が平重経を周防恒富保と仁保荘（現在の山口市）の地頭に任命したことを現地の住人に伝えた文書です。重経は、関東の有力御家人である三浦氏の分家で、相模平子を本拠として平子（たいらご）氏と名乗った武士です。

彼は、その後地頭として仁保荘に移り住み、鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請した神社や、頼朝の菩提を弔う寺を建立します。こうして鎌倉との精神的なつながりを保持しながらも、その子孫は仁保荘に定着し、そこを本拠とする仁保氏として発展していきます。

* 仁保氏（平子氏・三浦氏）は、鎌倉時代は西遷御家人、室町・戦国時代は大名大内氏の家臣、さらに江戸時代は萩藩士として生き抜いた周防の代表的な武士です。同氏に関する参考文献として、以下のようなものがあります。

- ・『仁保の郷土史』（仁保の郷土史刊行会、1987年）
- ・『瑠璃光寺遺跡』（山口市教育委員会、1988年）

* 当館に寄託されている「三浦家文書」は、仁保家に伝えられた文書群です。その大部分は活字になっています（『大日本古文書家分け14 熊谷・三浦・平賀文書』、『山口県史』史料編中世3）。